

# 歌枕名寄

第三十一

和書門類		一八二七四號	一七三函	三七冊
------	--	--------	------	-----

內閣文庫		和書類	一八二七四號	一七三函	三七冊
------	--	-----	--------	------	-----

內閣文庫		番號	和18274
冊數	39	(	33)
函號	202	123	





誘捕石字卷第三十一

山偏部上

陸奥國

山形縣

山形市

山形市

山形市

山形市

山形市

山形市





誇枕名寄卷第三十一

山陽部上

幡磨園

印南篇

幸荷島

雜篇

明石

家鴻

津田細江

二見浦

日笠浦

野中清水

饒磨

秋鴻

永瀬濱

高深

藤江浦

清水里

室浦

尻鴻

惠濱

本錦崎

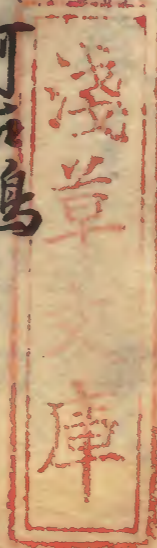
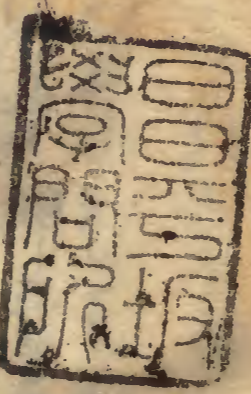
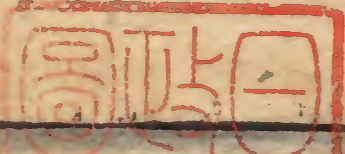
可古鴻

伊保湊

生鴻

朝香浮

楯崎





出濟 比治奇澗 響 武志安氣迫門  
 夢濟河 木庭別 高砂 青山  
 活道山 絶等寸山 名欲山 幡広岡府  
 船坂山

出濟 比治奇澗 響 武志安氣迫門  
 夢濟河 木庭別 高砂 青山  
 活道山 絶等寸山 名欲山 幡広岡府  
 船坂山

幡磨國

印南篇 野河海崎

万六

後茅

月七

日月

月九

秋

月七

不欲見野乃後茅押靡左宿夜之  
 氣長在者家之小條生 赤人  
 家了てまればいんふ下南野の  
 あさりううへよ照一月夜と  
 ぼれわて我かやいん指見野此  
 林ささ見つていんふこゆよ  
 右一肩大神を更任筑紫岡付り勢大ま  
 作平  
 伊行み野乃あさりかひつむわら



五ノ相

さう紙わりの時ふりさねる

右天平勝宝六年正月七日天皇太子  
天皇皇太后在東常宮南大殿時

播磨國守安宿王奏帝

かり人のらわの麻いひりみせ

あまてのこころのけりかれ 後人志

まろふ一親よやとせいらみ乃

いらとりよとせいらみ乃 結室

住よりと思れねる所つれい

ぬいあふしとせいらみのまき 補相

いらみおや心りてはくこころせ

五ノ相

さう紙わりの時ふりさねる

右天平勝宝六年正月七日天皇太子  
天皇皇太后在東常宮南大殿時

播磨國守安宿王奏帝

かり人のらわの麻いひりみせ

あまてのこころのけりかれ 後人志

まろふ一親よやとせいらみ乃

いらとりよとせいらみ乃 結室

住よりと思れねる所つれい

ぬいあふしとせいらみのまき 補相

いらみおや心りてはくこころせ

七ノ吉

鹿

拾六

女節犯

同七

誠人伝書要

録五十六

尾花 松

尾花よまら松乃むらり 土門院

家集

いらみ節の松乃松花のまき

とせいらとせいらつさねり 家持

みまき名らりのまき山いらみ節の

いまくこころのまきにならり

六ノ松

波糸集山

河

アスヨリハイナノカハノイテイトハ  
明日従者将行乃河之出去者留置者

意也将也

いらみ河いらみやまにいらみ

まらりて世もまらりてまらり

いらみ河石のまらりてまらり

万十二

六ノ松



海

草  
うとのつととそとらりすかり

万三

名細寸稻見乃海之奥津浪

千重尔隠奴山祿島根者 人産

右下筑紫国时海路作平二角内

わさもみうらみの海れき波乃

よらハモリコ小きけてりみよ 衣笠内大

新六

鳴

懐中

いしをとおあわさるいさやま

こよひをうらひ舟さくむら

白笠浦

万七

平重隆のゆきさぬあまらふ

いこの浦は波とくらぬゆ

あまらふよけぬと袖もわきまきり

日笠の浦とさくそまつれも 題季

万百

藤江浦

或藤井 岸

荒栲蓐江之浦雨鈴寸釣白水郎

等香将見藤と吾字 人産

一本自栲乃藤江浦尔伊射利乃流

八隅知と吾大王乃神随高所知流楢

見野能大海乃原笑荒妙藤井乃浦

尔鮪釣等海人船教勤塩焼号人

川六

万三



曾<sup>シ</sup>友<sup>ハ</sup>波<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>浦<sup>ヲ</sup>子<sup>ヨ</sup>吉<sup>モ</sup>屋<sup>ニ</sup>宇<sup>ハ</sup>倍<sup>モ</sup>釣<sup>有</sup>  
為<sup>ス</sup>濱<sup>ハ</sup>年<sup>ヲ</sup>若<sup>ク</sup>義<sup>ニ</sup>諾<sup>ス</sup>毛<sup>モ</sup>塩<sup>ヲ</sup>焼<sup>キ</sup>蟻<sup>ヲ</sup>従<sup>ヒ</sup>来<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>饗<sup>フ</sup>  
母<sup>モ</sup>知<sup>ル</sup>師<sup>ニ</sup>情<sup>ヲ</sup>白<sup>ク</sup>濱<sup>ニ</sup> 赤<sup>シ</sup>介<sup>ノ</sup>

奥<sup>ノ</sup>は<sup>ノ</sup>源<sup>ノ</sup>へ<sup>ノ</sup>波<sup>ノ</sup>た<sup>り</sup>き<sup>き</sup>こ<sup>り</sup>す<sup>き</sup>  
其<sup>ハ</sup>江<sup>ノ</sup>の<sup>う</sup>ら<sup>ふ</sup>お<sup>ろ</sup>う<sup>こ</sup>ら<sup>り</sup>る

夕<sup>タ</sup>ら<sup>比</sup>の<sup>森</sup>江<sup>ノ</sup>の<sup>浦</sup>は<sup>さ</sup>ら<sup>は</sup>な<sup>り</sup>  
あ<sup>れ</sup>ら<sup>ん</sup>海<sup>も</sup>心<sup>を</sup>み<sup>ま</sup>り 陸<sup>途</sup>

吹<sup>風</sup>は<sup>友</sup>江<sup>ノ</sup>の<sup>浦</sup>を<sup>見</sup>て<sup>も</sup>せ<sup>は</sup>  
ま<sup>さ</sup>き<sup>は</sup>ら<sup>う</sup>て<sup>も</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>し</sup>め<sup>り</sup> 乳<sup>豆</sup>内<sup>衣</sup>

波<sup>ハ</sup>本<sup>々</sup>と<sup>遠</sup>の<sup>地</sup>う<sup>ら</sup>わ<sup>り</sup>き<sup>ら</sup>後<sup>靴</sup>  
こ<sup>し</sup>め<sup>わ</sup>ら<sup>な</sup>友<sup>江</sup>の<sup>浦</sup>の<sup>物</sup>を<sup>み</sup>る

岸

し<sup>し</sup>の<sup>江</sup>の<sup>森</sup>江<sup>ノ</sup>の<sup>浦</sup>は<sup>さ</sup>ら<sup>は</sup>な<sup>り</sup>  
と<sup>せ</sup>ら<sup>う</sup>ね<sup>ほ</sup>そ<sup>る</sup>お<sup>ろ</sup>う 松<sup>崎</sup>院

可<sup>右</sup>島

稍<sup>イ</sup>月<sup>ナ</sup>野<sup>ノ</sup>も<sup>モ</sup>去<sup>キ</sup>過<sup>ス</sup>勝<sup>カ</sup>尔<sup>テ</sup>思<sup>オ</sup>有<sup>モ</sup>者<sup>ハ</sup>  
心<sup>コ</sup>戀<sup>ロ</sup>敷<sup>キ</sup>可<sup>カ</sup>右<sup>ノ</sup>島<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>見<sup>ユ</sup> 入<sup>丸</sup>

か<sup>こ</sup>れ<sup>松</sup>を<sup>う</sup>ら<sup>ふ</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>乃</sup>  
あ<sup>か</sup>ら<sup>う</sup>く<sup>く</sup>ア<sup>ら</sup>な<sup>う</sup>し<sup>よ</sup> 讀<sup>入</sup>不<sup>知</sup>

日

影<sup>五</sup>十<sup>六</sup>  
野<sup>六</sup>月

波<sup>三</sup>

万<sup>三</sup>

拾<sup>八</sup>  
松<sup>鶴</sup>



後八  
月

かこびまねくこふせりせん  
ありめの月よふをたくれん  
あきりたるうらなくちかこの時  
松原とびくちかやまのうら  
行徳

幸荷島

淡路乃野嶋毛過伊奈義婦幸荷乃  
島之島際長吾宅宇見者喜山乃  
右邊幸荷島村山部宿孫赤人地言

友類

むりらかろれ時りあきりす

水鳥しとあれやあやせん

後四

あまのこみとあふ月ぬのは

雅純

日野中清水

いあし乃野中れあふのわらけと

後八

わこの心とあふ人そと心

我のこいあふやならあふ

あふの清あふささるれん

あふ乃野中れあふささるれん

あふと心あふささるれん

あふの清あふささるれん

付実



十音

しんじ(あ)がむ(あ)ひて(あ)る(あ)乃

抄

十一音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

日

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

十二音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

十三音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

十四音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

十五音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

十六音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

十七音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

十八音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

十九音

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

續拾三

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

月十五

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

新拾九

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

月七

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄

一字抄

女房記

あ(あ)の(あ)ま(あ)り(あ)ひ(あ)ら(あ)る(あ)乃

抄



二多後河  
思方志

じりーらー中の中の水とたつねて  
きくしに袖とまわしつるる  
後成

あまけき野中れおとさくま  
あひくささるるの向とあつ  
後成

くまてらう神中乃おとらうま  
つをさくしりとれあまらふ  
信実

日  
見みうさる野中の清水さう  
日

わりのさくさうの世うまうん  
日

清水里 又在信の國

わりのさうて清水の里は位わね  
常陸

あまのけきまうわらふれ  
常陸

雑篇

明石

浦濱 浮瀛 波泊

右平 未史故信乃亦入  
入

あふれん物をやりさるるあま  
あま

清水のさうにさみうさあ  
大進

此哥亦可入信乃控体有便  
有便

拾四

我宿へんり海さるるあふれ  
あふれ

あふれん物をやりさるるあま  
あま

わらわらうまこのさうあ  
あ

こよひありの月とさう  
あ

右一着情摩のゆを云ふま  
あ

中納言  
資深



よきうそ月のあるはらから中文字  
整ふそとなりたるとん也言 珍式歌  
在浦

次広あー浪のえんわーらけと  
あゆもろーきたりそきこら  
光後

見渡者明石之浦尔焼火乃

保爾魯書流妹尔恋久

右在難波見漁父燭光作歌

けのくとあーれーの朝まりに

あーれれあーあーらあー

拾八

松原

日

月

後拾九  
月

日

金三

月

よきうそあーれ浦乃おそ

あーれとあーらあーらあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあー

海舟寛

珍式歌

仲原内太右

有永安光

朝臣



日  
堀  
槿  
花

日  
十  
鳥

日

日  
新  
古  
五

日  
月  
七

日  
八

波さうのうらうらとくさくさしり 平忠威 初下

浦風う浪もあつてさうさうすう 題季

わらわのあつたの羽ふたの花

月けしめ石のうらげささゆき

さうさうさうさうさうさうさう 巨房

あつた心と明石の浦乃うら風よ 仰光

さうさうさうさうさうさうさう 雷寺入

はくくとあつたあつた海うら

波のさうさうさうさうさうさう

海人か舟とさうさうさうさう風よ 後教

いさかあつたあつたあつたあつた

日  
新  
勅  
七

日  
月  
七  
旋  
風

日  
新  
古  
五

日  
後  
古  
四

日  
新  
古  
二

日  
新  
古  
一

波さうのうらうらとくさくさしり 秋の

かうさあつたさうさうさうさうさ 巻後

つれさうあつたあつたあつたあつた 後教

あつたあつたあつたあつたあつたあつた 後教

さうさうさうさうさうさうさうさう 源右種

さうさうさうさうさうさうさうさう 巻後

いさかあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

さうさうさうさうさうさうさうさう 巻後

あつたあつたあつたあつたあつたあつた 巻後

舟さうあつたあつたあつたあつたあつた



鹿

後拾二

春月

浦よりさられし海川のあり 後成

さしあつらひのうらつらしたまの月

ありしれうらうらとせしはも 恒派海終

山乃くもたてぬありし浦より

語えれゆく月よたかくぬ 後拾二

志れをちよせしひぬ名の浦とわく

つと田のりありとせしは 後拾二

初日けありのうらしは 後拾二

ささめくありありとありの袖も 後拾二

さしあひのありし浦乃くさみの

れりの月さるありとせしは 信実

誦念生田社

後七

海老部

日

信実

濱

方七

吾舟者明且石之潮爾擗泊年

奥方莫敢狭夜深去来

ねしあひわくけけきありし浦より

みづめきくなくありぬつ也

さしあひの月さるありとせしは

ありし海よつりさるる 五

百七

新

百七

新百七

明方潮干のうらとありし海

ささうねしあひぬありし 後拾二

ありし海よつりさるる 後拾二



すくろは月もやうらめくも

めろふあまのこころをいらすら

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

あしうきけき林の長月月影光後

新勅四  
栲縄

後五

月四

月三

月二

月一

月六

月七

瀧

月八

建保名所

あしうきけき林の長月月影光後

定家



渡

万三 初吉

天離夷之長道徒憲未者

人磨

全三

我らうらぬ石のせきに揺ねせめ

十五

麻

お月ありまよやとら月うか

後五比師

初九

夕るらるあし此門にカ見まさせい

常盤井

万三

留次之明大門尔入日哉榜将別  
家當不見

人丸

泊

月さゆらあし此せきにせかけい  
らかりのうしよたむむさる波  
岸此岸ふあしのをきた入まかり  
うしの松風をまよまらるる

津浦

二ノ名にさうまのりそりかろくまき

りくあわりのこまからりるも

磨磨

口河浦市里

全八

いせめてきりま時らるるはた



今八

志く海なる山なりけりわが心 後人志

詞七

くわの山なる志く山なるわが心

人との心とわが心なりけり 多縁の心

月八

我急にあいふ心なりけりわが心

志く海のうられ多きなりけり 有原道純

ははせ寺家

たの山なる志く山なるわが心 後成

あひうめく心なりけりわが心

最勝四天王

いふ心なりわが心なりけりわが心 益後

院屏風

志く山なる志く山なるわが心

詞六

くわの山なる志く山なるわが心

藍島

い川あなる山なる志く山なるわが心 佐実

万七

志く海なる志く山なるわが心

日笠の山なる志く山なるわが心

河

月十五

わが海なる志く山なるわが心

たの山なる志く山なるわが心

熊鷹川なる志く山なるわが心

くわの山なる志く山なるわが心 有原道純

水上の山なる志く山なるわが心

海なる志く山なるわが心 隆祐

水なる志く山なるわが心



浦

海はくくくくあきれゆりて 中絶

春うきとあはれの浦とこめつれ

ゆかつりやあまの物 友 公実

右堀河百有善通平高同浦

異本此世仍載之

市

千五

恋をのこさくはれ市ふし民の

たぬぬ 後成

うら 後成

あはれの市 人

遠保百

これぬ 定家

あはれ 定家

む 後成

君 後成

かり 後成

右 後成

奇 後成

と 後成

付 後成

里

堀河

うら 後成



あいにそそきくつしあて月る 望月  
くわよがらるるをわれ里よりをわのれ

いけりゆりんのまよりつらさ 礼部内書

室浦 付鳴崎 浦

百五

室ノ浦之端門之崎有鳴島  
合ノウラノセトノカキタナキニノ  
イッノコスナニニスミタカモ

越越原亦所法可守

ひらの浦を下ののこれまよまら 中務省 祝

かきと鳴きけてせとわらあり

室乃浦のせとれをみ波とく 信濃

百六

あははよりくつらつれ人 礼部内書

あめたわらうせのあをのうらふ

廣田社言合

あそふいりゆりつらつれ人 資治

洵

あそふいりゆりつらつれ人 資治

あそふいりゆりつらつれ人 大江義重

伊保渡 浦

あそふいりゆりつらつれ人 大江義重

あそふいりゆりつらつれ人 大江義重

百六

あそふいりゆりつらつれ人



一月廿二日の夜ふと海をみて  
やうらなれせぬ月夜の空

登蓮序

家鴻

百五

あさけのさきう ちれつとせんとあま人も  
あまのまひん ちかひりり乃 ちかひゆき  
と一海を ちかひみかぬ 上果  
家一海をくまよくまれ海原を  
わつこふさつるのちあまこま

右一と遠新記使も回東筑紫海路  
入京到播磨國家鴻之時作哥  
五首也

歌島

うへをさう一 流家一海のふささ  
うらぬくみ乃とさうりなりさ  
家陸

うこの一海乃され下はなとらわて

あまののりれいさうのいゆか  
後成

屍島

ひり人いふあかぬさうさむて  
この海一も名海御せん 日

生嶋

あさけのさきう ちれつとせんとあま人も  
あまのまひん ちかひりり乃 ちかひゆき  
と一海を ちかひみかぬ 上果  
家一海をくまよくまれ海原を  
わつこふさつるのちあまこま

懐中



津田細江

乃安之蘇田津細江同事終

万六 箋十

風吹有浪可將立跡伺候爾

都多乃細江尔浦隠往

赤人

右過幸荷島時化奇

續五

六月毎い津のりつははた

五月雨 水尾盡

乃くぬも少うきさうーなうたり

尾威歸

新六

おきらば津田乃くぬ江の浦之れ

月も少くもとうり舟人

新家

沖は風つこのゆり乃くぬ津

かさねるものいふみるり乃くぬ

船瀬濱

小六

名才隅乃船瀬從所見淡路島松帆

乃浦爾朝名藝尔

下畧

坐金村

及秋

乃くぬりもあやわたり

乃れとの津よきさうり乃くぬ

右津島三年九月十日幸於情磨圃

印南野時作奇

戀濱

懷中

人忘れさうーと物さうり乃れし

乃れさうり乃れし乃れ乃れ

松原







高野

五七

物井中しゆんふんもひいたるたの

あまのこまやうららやーあむ

後人書

石幡磨回よるほりよふよはみ

ろき家りらてほろるとあま母のま

まてらまうまうてかのうたなは

くらんよりいつらまるとさん

本郷

懐中

神のまゆらりくまんとあまを

うけてういのるゆきだのま

楯

出濟

五七

ちりぬるそまにやううたふれり

うまにれいもあられまきり

後人書

比治奇灘

五七

昨日うあかひせりうきれり

ひらきりかきまきまきつら

後人書

五七

あまのまゆらりまゆらりのま

まゆらりまゆらりまゆらり

長方

うまのまゆらりまゆらり







たぐわぬ秋うき浪り此を

たのりしれじいあきのせをさうかひ

しめしむ波もよじしをきりふ 後成

ふたふたれり月けもあをれたる

ひりあきのね乃向れ 後成

ひりめのきされぬわのさりきりえ

るこ乃もさるれみたる 平家盛

右一肩彼おちうそくうりけの時計あを

とりふあのおきさ寺のねよき付たるん

風あさきひりあけのせとれ夕やま

夜よひもは夜まのあ人 後成

右文永八年七月廿一日河原よりてん

部をさくしてさうさうさうさうさう

様泊のせよさうせ始たるん

磯

舟さひらひりあきの波れねの風

たりゆめりちよう又わりせん

夢 濟河

うつよんきよてもいふはさうさう

ゆめり河のきわてもあらん 後成

木庭

まやまぬをさうこのぬいれん



家集

さきにはこまぬ物をもるなり 後教  
わき道ても わらうなり 我らる

ゆめさ記のを能くかえん

常見

右一と懐広回片の夢崎河をたる

とそとらん

高砂

山峯 尾上 藤里 浦 濱 陸 岸

古七

誰をも志らぬ人よせん せうさこ乃

豊見

ねもじりし 此友たうれえふ

古七

れき付とありきぬよし けりし

後人

けりしとありきぬよし けりし

月十二

高乃ねをたれしとみしと

さきねおあはさるぬかりなり日

さき乃まのしとさつとさきと

かたぬあえおさきはたのまじ日

けりしとありきぬよし けりし

あまきと時乃若とええええ日

さきねのあしとのあも高砂の

まつよはきとさつとさきと

さつとさつとさつとさつとさつと

ねもまのしとさつとさつと

さきよわりとさつとさつと

さきこの人のまのしとさつと

拾四

月八

月五







綾拾四

う砂れねりわくくを響ひそ

月よ物まわるは深し此を

程野渡長

月八

冬まきい雷れうとゆるたきとれ

ねをさそとてひくかりある

名家

月十六

う砂のねはうのういねをうも

あふれをけきりあう人よきん

出定

月廿二

ま月いふくまをひきてあふこの

ねの本すあううううなをみ

平家

月廿六

志んうううううう風をれれ

宮よこのおるをうさことね

藤原

建保三年丙

うれあうまをや井よをうさこ

くそみのう乃ねれは

定家

こぬをというつさきまうさこ

藤のつうまふさうのさう

抄家  
清平

右打向こさささ記のう

う砂乃ねはうううぬをうさ

かたあささるま此一が

名家

奥風よまうもいねをう

りさう砂のね乃本を清

後家

山

う砂の山乃中よりたのへたり

う砂の山乃中よりたのへたり

名家

新去 綾拾六



鹿嶋三年家お  
中野宗春姑言合

鹿の行くも竹山乃本さうき  
ふららのうこれまゝとらん  
さゆの山はさうもさうしや乃  
あゝたにさゆらねのさうしや  
う月乃敷ともさうしやぬり  
つららちりれさうさこの山

一条内大臣

峯

みう鹿れまゆきふたうさこれ  
さねのねゆあさうさうさく  
さゆのさゆ乃まゝとらん  
さゆら人まゝとらん

兼輔

骨之集

後四

後十

さゆのさゆねゆさうさうさく  
人乃さうらとたのさゆらうさ

清人

尾上

杖森の花さきに乃り高ゆの  
れの人乃麻はいさわかとらん  
わくしつと世とやけとらん  
ゆのさゆまゝとらん  
ゆのさゆまゝとらん  
ゆのさゆまゝとらん  
ゆのさゆまゝとらん  
ゆのさゆまゝとらん

繁

清人

源唐胡

羽長

清人

古四

萩麻

月を

後十四

小松

拾三



拾四  
瀬

月八

ふゆ乃ねよとむつるをくれん  
ゆのへれあやとにまきうらむ  
丸とゆらねのまよとあつらむ  
ゆのよとまう風とあつらむ  
生見

月八

石一音天磨は時あわらふを  
よくせねて人よはうきとせ給  
ゆらふ高砂を

月八

我のよここのころそらそらと  
ゆのよとせらねとこのころ  
後人

順集

うらよけの波とゆのへれねと  
ゆのよとせらねとこのころ

五感集

高砂乃丸と此務をゆりつる  
鹿のよとせらねとこのころ

五感集

月新うきあゆまきとゆの  
たのへ乃高砂の花とあつらむ

後拾一

高砂のた乃魚此橋とあつらむ  
外山此と見とあつらむ  
巨房

月八

鹿のゆり木とあつらむ  
尾上のたのみとあつらむ  
涼

月八

木をかたわらふとあつらむ  
尾上乃あもつとあつらむ  
往因

月八

我のよとせらねとこのころ



拾九

おのへ乃ねもさるはさるなり  
言ゆとたくれつひそむし  
尾上のさるへしひそむし  
源相方 羽尾

四

右一首六条左長身なりて後幡  
の圓よりさるなりよさゆの節なり  
こゝのさるさるこゝとらんふと  
なれりさるなりやきせん後幡なり

坂

言ゆの尾上はねさるなり  
さるなりさるなりさるなり  
付実

十一

高砂乃れたの魚は橋さるなり  
本さるなりさるなりさるなり  
成保

月六 鐘

たりさこれ尾上のうね乃をさる也  
ありささるなりさるなり  
匡房

月七

言ゆ乃れはねさるなり  
さるなりさるなりさるなり  
成保

新

尾上のさるなりさるなり  
高砂はねのへ乃輝よいつとも  
秀結

千

ねさるなりさるなり  
ねさるなりさるなり  
通具

月

時ぬ  
尾上のねさるなりさるなり  
有家

月

高砂乃れさるなりさるなり



新勅一

赤錦

月

月二

月

月十二

月十二

おのへの魚は花をちりける 後成女

高砂乃尾と此さくらうらぬきい

さくらこれゆきさくらうらぬきい 式子内歌

浦のさくらやまのさくらうらぬきいこの 前同の

おのへの乃さくらうらぬきい

高砂のおの魚は花をまをられて

のうらぬきいね乃さくらうらぬきい 後巻抄 赤良

春風の軒よくまをらたうさこ乃

おのへのさくらゆら花がうらぬきい 長方

高砂のみのうらぬきい春はたの 源有長

よれもつさくらうらぬきい

続江三

友

月五

裾野系

続江三

白雨

月五

続拾

月十二

さくらうらぬきいさくらうらぬきい

おのへの乃ねとわらうらぬきい 裾野系

高砂乃尾と此せやうらぬきい 清浦

さくら野のさくらうらぬきい

松岡もさくらうらぬきい

おのへの乃これゆきさくらうらぬきい 中巻抄 親

さくらうらぬきいさくらうらぬきい 他同

さくらうらぬきいさくらうらぬきい

尾上のさくらうらぬきい 推定

高砂のゆきの乃さくらうらぬきい



四十一

新板一

八分

四二

四三

同院新板家

百三

四四

家持集

四五

多しうそめさしあれども 世習

うゆのたのめれどもとせぬれや

たんばもつりら松のふし書 式部門洗

山風さうりしそあけたうさこの

ゆめいれさうしよまさうりらむと 山階公左大臣

うゆの屋上乃妻れ親りともみ

ふれらくこれと妻らうまきり 信実

うゆのゆめいれさうりらゆめいれ

ねのふもゆめいれら月のをやけさ 中務右大臣

秋風は夜とたふさぬたうさこの

あとの花乃ららうまきりし甲斐

まやうりら人の涙やをうさこの

尾とよかりよさこのねうせ 能家

うゆのねつれをさゆめいれら

そのまゆめいれら清くゆめいれ 定家

林原里

坊百

うゆのゆめいれさうりらゆめいれ

尾上乃さうりら書とゆめいれ 歌伴

浦

おまわあれれさうりらゆめいれ

うららさうりら松の夕され

松平信房

廣敷

濱



百代 千々

刻たりぬくこわき分の深りあり  
あつとあつと世をまよふ

湊

一字抄 削り砂のねよりくぬきけり  
二乃みちをみちをぬきけり

二乃みちをみちをぬきけり

岸

民部卿房 了つるよりとせをさぬきけり

了つるよりとせをさぬきけり

家子合

了つるよりとせをさぬきけり

青山

万三 六帖

あつと山乃さひれをぬきけり

月六

つゆよこれとせをぬきけり  
幸初乃島之島際從吾宅宇見者  
青山乃雪許十方不見自雲色千重尔

成来沼許伎多武流浦乃盡往隱居

乃濟く隅毛不還憶曾吾來客乃  
氣長孫 上果

右過 幸荷島時作哥

垣越 大石越鳥獵為公青山葉茂山

過馬安息

月七 旋以秋

人丸







縣歌二首内

名歌山

或和曰奈保利山或和曰奈与山

名歌山 ナホリヤマ

石少とありし君ありあしきん

石右井連遷任上京時同娘子縣

新

今平了志麻塔久可歌名歌山

石蹟平之復亦毛來武

右藤井連和歌

情磨回府

忠見集

若れまらるよきまひくそき

右とあり海のこまやありさるよ歌

こまとれちげはあつとせん

船坂山

日集

風とぬぬかれさう山はうし月を

たちとさうりそとせり也けり

右情磨回府あまさう山とふ歌

てよめるとせん







